第３学年　英語科学習指導案

日　時　平成 17 年 8 月 30 日（火）５校時
学　級　山形村立山形中学校　３年Ａ組
（男子 14 名 女子 18 名 合計 32 名）
指導者　T1：高橋　明浩　　T2：角　槙子

1　単元名　　Unit 4　An American Rakugo-ka

2　単元について

(1)　教材観

ア　新出文型

ここで学ぶ新出文型の一つ目は、「疑問詞＋不定詞」（疑問詞は how と what のみに限定されている）である。疑問詞については、１学年で who, what, where, how, where, why, when, whose を学習済みである。一方、不定詞については２学年で副詞的用法（～するために）・名詞的用法（～すること）を学習した。３学年では Unit 3 にて形容詞的用法（～するための）・原因を表す用法（～して）を、２学年の２つの用法を復習しながら導入した。上記２つを組み合わせたのが、「疑問詞＋不定詞」であるといえる。

二つ目は、形式主語（It is ～ for+人 ＋ to 不定詞）である。これもまた不定詞の用法のうち、応用的なものである。To 不定詞がなぜ文の後ろに来て、空いたところに仮主語 it を置くという面倒くさい手法がとられているのか、説明が必要となる。

イ　題材

Unit 4 を通して扱われる落語は、伝統的日本文化の中でも特に身近なものの一つである。実際に英語で落語を演じる人もおり、ここではビル・クラウリーさんという実在の人物の小話が紹介されている。落語での扇子の使い方の解説、週末に英語の落語を聞きにいこうという対話を経て、ビル・クラウリーさんによる創作落語の翻案から食堂で店員を呼ぶときの日米の文化の違い、「すみません」と I'm sorry.ということばの使用法の違いを扱う。

ウ　言語使用

自分が言いたい英語が口をついて出てこない場合に、よく用いられるのが自分が知っている簡単な英語での言い換え、ジェスチャーや絵図の使用である。これらについても練習を通して身に付けさせることができる題材となっている。

(2)　生徒観

生徒の授業への集中力はおおむね高く、私語や落ち着きのない行動は見られない。課題や提出物の状況も、担任の長きにわたる指導のおかげで非常に優秀である。しかし授業を受ける姿勢として発言が少なく、決して前向きとはいえない。頭の中に自分なりの答えを持って

いても、それをみんなの前で披露しようとしない。人前でまちがえるのを恐れているように思われる。また、与えられた課題にしか取り組まず、次々と疑問が湧いてきてそれを質問するなどして解決しようとする生徒が少ない。そこで、新出文型を身に付けさせることを第一目標とし、小集団を組ませてタスクを与えて学ぶ学習形態が効果的ではないかと考えている。

(3) 指導観

新出文型「疑問詞＋不定詞」の導入については、既習事項を復習してから「疑問詞＋不定詞」を導入すれば文法体系的には整理がつくが、どうしても説明が長くなりがちなので、ここでは「疑問詞＋不定詞」を連語のような一つのパターンとして導入する。その一つのパターンを演繹的に身に付けさせるために、インターネットの書籍検索サイト「Amazon」から検索した『～方法』『how to』と名の付く書籍名をいくつか提示することにより、有用性を感じさせながら学習させていきたい。

一方、もう一つの新出文型である「形式主語（It is ～ for+人 ＋to 不定詞）」については、「早く結論（＝動詞）が欲しい」英語の特性として、主語さえも長ければ後回しになるということを強調しながら説明し、これも多くの生徒の日常生活に根ざした題材を使って置き換え練習を行い、有用感を感じられる学習をさせたい。

(4) 指導の工夫（私の提案）

ア 英語に興味を持たせるために…洋楽の活用

15 年以上にわたり、英語の授業の中に洋楽を取り入れている。過去においては、洋楽の歌詞をもとに１行おきぐらいに空欄を作り、歌を聴かせながらその空欄にはいるべき単語がどれであるかを選ばせるだけであったが、それだけでもけっこう洋楽に興味を持ち始め、「テープを貸してください」と言いに来る生徒が多く見られた。本年度、「英語大好きジュニアハイスクール」における指導上の工夫の一つとして、初めて「生徒に歌わせる」ことを始めた。学年ごとに難易度の異なる歌を扱い、授業の始めに歌わせている。合唱好きな本校生徒の素直さも相まって、予想をはるかに上回る大声で歌っている。本時で提案させていただく大きなポイントの一つとして、新出文型が何度も出てくる歌を選び、それを聞かせることによって、実際にその文型が用いられている場面を体感させたい。

イ 言語活動時間確保のために…ノート取りの廃止（２・３年生）＋ワークの活用

過去においては「自分専用の参考書を作る」ということで、新出文型が出てくるたびに解説を板書してノートに写させてきた。本年度新たな取り組みとして、それをやめた。授業の始めにおいて洋楽の導入・音読練習・Small Talk・単語テストなどを取り入れているため、写させている時間がもったいないと感じてきたからである。また、せっかく購入させるワークも授業で扱うことが少なかったからである。その代わり、文法の説明がきちんとなされていて、適度なバリエーションに富んだ問題が載っているワークを選択し、新出文型が出てくるたびにワークを開かせてまとめの解説をし、問題演習をさせている。

ウ　すべての生徒に教科書本文を理解させるために…グループ学習

生徒一人一人に本文の内容を理解させるために、よく用いる手法はプリント学習である。しかし、本校において３つの学年を一気に（しかもそれぞれ必修３＋選択１）教えている現状からは、そのようなプリントを作成するための時間的ゆとりは少ない。そこで、（Starting Out 主体である本時では行わないが）本文の内容理解においては「ここに書かれていることについて、先生のいかなる質問にも答えられるように作戦会議をしなさい」という手法をよく用いている。この方法は、上位の生徒たちにとって、早く終わってしまって何もしない時間がなくなり、他人に教えることによってより深い理解を得られる、一方、下位の生徒たちも教えあい学習によって、正解を準備できるという恩恵を受けることができる。

エ　書く力をつけるために…フォニックス～単語テスト

英語が「書ける」ためには「まず読めなければならない」という考えから、昨年度からフォニックスを取り入れている。特に最近は小学校で教わるローマ字の扱いが軽くなってきていることから、この指導が欠かせない。また、実際に書く力をつけるためには、やはり多く書かせることが一番効果的なようである。そこで、１年生の必修単語 350 個ほどをまとめた冊子を配布し、その中から 50 問（３学年。２学年は 20 問）ずつを選んだ単語テストを２回ずつ行っている。書けない生徒は当然、練習の仕方も分からないため、支援の必要があると考えている。

一方、キーボードでの入力となるが、「英語大好き JHS」の予算で購入した「特打小学生」や「えいご漬け」、イーオンのフリーソフト「オザイオン」「英単語名人 10000」などを選択英語にて使わせている。生徒はパソコンが好きらしく、ゲーム性やチャレンジ性のあるソフトウェアもあるため、非常によく集中して取り組む。しかし、どうしても個人所有のパソコンとは異なり、前にやったことを忘れた頃に使うことになってしまうのが課題である。

3　単元の指導目標

(1)　コミュニケーションへの関心・意欲・態度

- 新出文型を進んで理解し、それを使って自分なりに表現したりしようとする。
- いろいろな工夫をして、自分の意志をなんとか相手に伝えようとする。
- 日本とアメリカの、文化や生活習慣の違いに関心を持つ。

(2)　表現の能力

- how to ～/what to ～、It is（形容詞）for（人）to+動詞原形　を使って、自分が言いたいことを音声や文字を使って表現することができる。
- 知っている単語での言い換え、ジェスチャー、絵図を用いるなどいろいろな工夫をして、自分の意思を相手に伝えることができる。

(3) 理解の能力

・ 英語落語に関する英文を聞いたり読んだりして、内容を理解することができる。

(4) 言語や文化についての知識・理解

・ how to ～/what to ～、It is（形容詞）for（人）to+動詞原形　の形と意味を理解することができる。

・ 食事の注文のしかたや、「すみません」と I'm sorry. の違いを通じて、日英文化の違いを理解することができる。

4 単元の指導計画および評価計画（6時間扱い　本時１／６）

指導内容	評価計画					評価方法
	関意態	表現	理解	言文	評価規準	
Starting Out (1.5 時間 本時 1/1.5) ・疑問詞＋不定詞 ・落語における扇子の使い方	●				「疑問詞＋不定詞」が用いられた英文の意味を理解し、自分なりに表現しようとする。	行動観察
		●			「疑問詞＋不定詞」を用いて英語で表現できる。	行動観察 テスト
				●	「疑問詞＋不定詞」の文の形・意味・用法を理解できる。	行動観察 テスト
Dialog (1.5時間) ・It is ～ for 人 ＋to 不定詞 ・英語の落語を聞きにいこうという対話		●			「It is ＋形容詞＋for … to ―を用いて英語で表現できる。	行動観察 テスト
			●		健とエレンの対話の内容を理解することができる。	行動観察
				●	「It is ＋形容詞＋for … to ―」の文の形・意味・用法を理解できる。	行動観察 テスト
Reading for Communication (3 時間) ・食事の注文のしかたのちがい ・「すみません」と I'm sorry. のちがい ・英語が通じないときのいろいろな工夫	●				言い方がわからないとき、いろいろな工夫をして意味を伝えようとする。	行動観察 テスト
		●			言い方がわからないとき、ジェスチャー・絵図・簡単な英語での言い換えを使って、内容を伝えることができる。	行動観察
			●		英語で語られる小話を読んで、内容を理解できる。	行動観察 テスト
				●	日米の文化の違いの一例として、食堂で注文をするときのちがい、「すみません」と I'm sorry.のちがいを理解できる。	テスト

5　本時の指導

(1)　目標

・「疑問詞＋不定詞」が用いられた英文の意味を理解し、自分なりに表現しようとする。
・「疑問詞＋不定詞」の文の語順・意味・用法を理解することができる。
・「疑問詞＋不定詞」を用いて英語で表現することができる。

(2)　評価

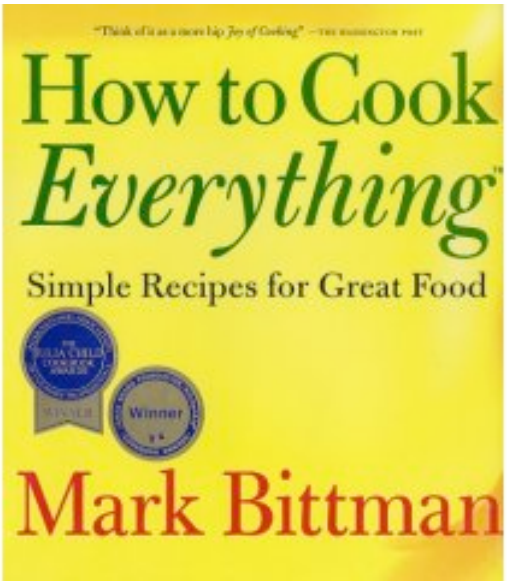
評価規準	観点	評価	具体の評価規準	評価方法
「疑問詞+不定詞」を用いて英語で表現できる。	表現の能力	A	「疑問詞＋不定詞」を用いて、相手にたずねたり、自分の考えを述べたりして情報交換を滑らかに進めることができる。	行動観察（a） テスト
		B	「疑問詞＋不定詞」を用いて、相手にたずねることができる。	
		C	「疑問詞＋不定詞」の定義や用法・形の確認をさせ、再度挑戦させる。	
「疑問詞+不定詞」の文の形・意味・用法を理解できる。	言語や文化についての知識理解	A	「疑問詞＋不定詞」の形・意味・用法を理解でき、自分の考えを述べたり、相手にたずねたりすることができる。	行動観察（b） テスト
		B	「疑問詞＋不定詞」の形・意味・用法を理解し、適切な日本語に直すことができる。	
		C	基本文を説明して形と意味を確認させ、再度挑戦させる。	

(3)　展開

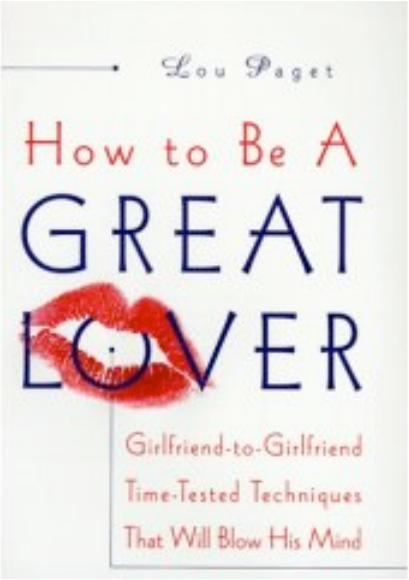
段階	学習内容	学習活動	形態	◆T1◇T2 の支援　●評価
導入 10分	1 今月の歌	・自分の歌いやすい所に移動し、音楽に合わせて歌う	一斉	◆“I Want It That Way”をかける ◆◇歩き回りながら、一緒に歌う
	2 How to の導入	・2 人の先生の skit を見て、how to の意味内容を把握する	一斉	◆◇how to が使われる場面を演じる
	3 学習課題の確認	・[how to+動詞原形]が「～のしかた」であることを確認する	一斉	◆板書で視覚に訴えながら説明する
展開 25分	4 パタンプラクティス	・cue に従って、いろいろな場面で how to の使い方を考えて言う	一斉	◆日本語で cue を出し、生徒の言った英語を黒板にメモする
	5 情報交換	・How to を用いて、３つの内容について友だちと情報交換をする	班	**●「疑問詞+不定詞」を用いて英語で表現できる（ａ）**
	6 洋書名調べ	・英語で書かれた how to 本がどんな本なのか、題名を当てる（各班２冊分ずつ）	一斉	◆班毎に指名して答え合わせをする
	7 まとめ	・ワーク p.48 の解説で理解を整理しながら、「疑問詞+to」の疑問詞に how 以外もあることを確認する	個人	◆what に加え when/where/who なども併せ、手短に説明する
	8 問題演習	・ワーク p.48（基本分初級：穴埋め）、p.49（基本文中級：穴埋め～上級：並べかえ）に取り組む		**●「疑問詞+不定詞」の文の形・意味・用法を理解できる（ｂ）**
終末 15分	9 本物の英語歌詞に触れる	・”Making Love Out Of Nothing At All”（Air Supply）の訳詞を見て、英語にする	個人	◆◇机間巡視しながら、つまずいている生徒にヒントを与える
		・曲を聞いて正解をチェックする	個人 一斉	◆１回目：曲の一部を聞かせる ◆答え合わせ（歌詞カード配布）と補足説明 ◆２回目：全曲を聞かせる

5

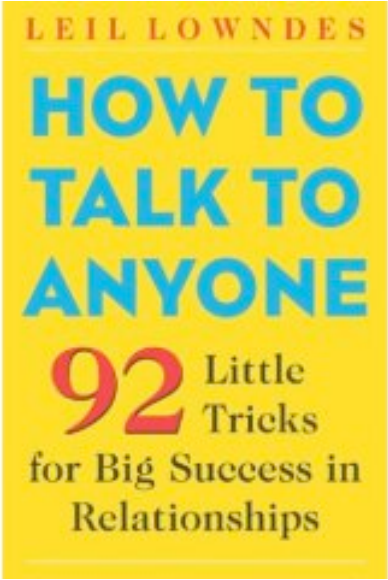
7



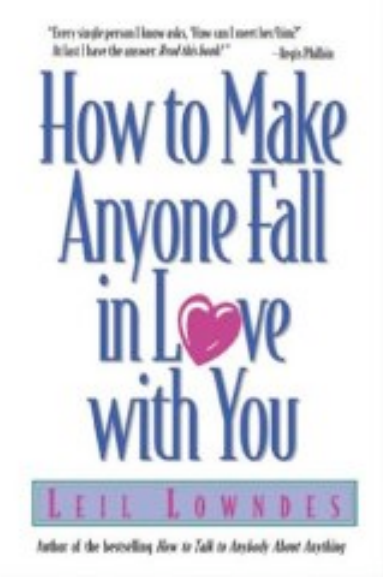
15



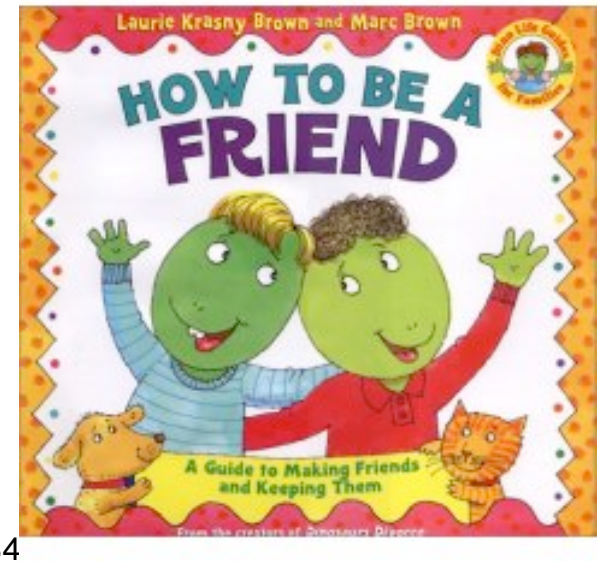
19



28

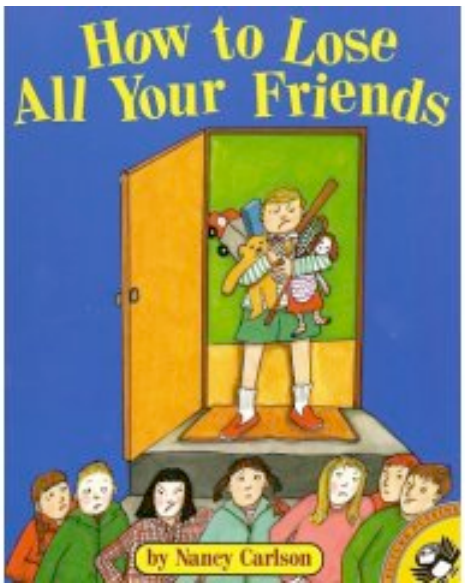


34

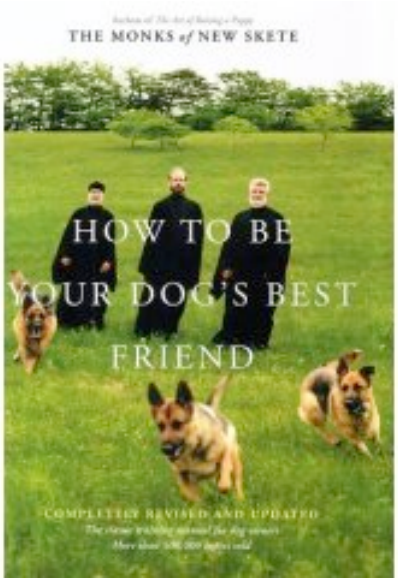


fall in love with ～：～と恋に落ちる

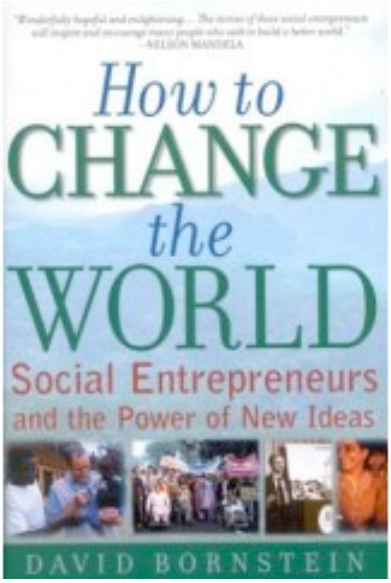
51



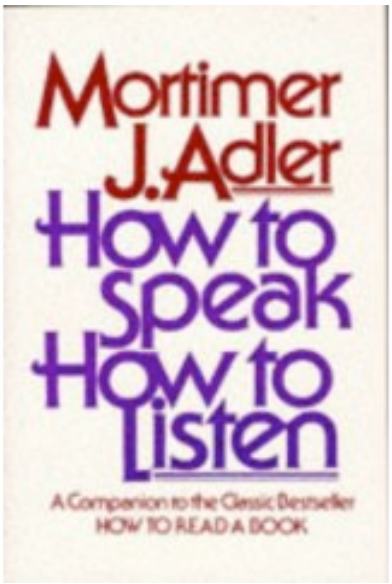
70



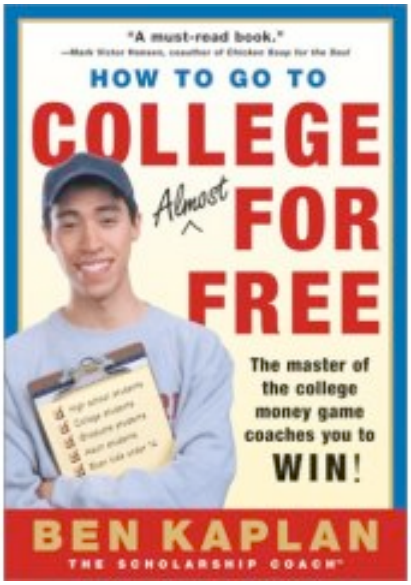
71



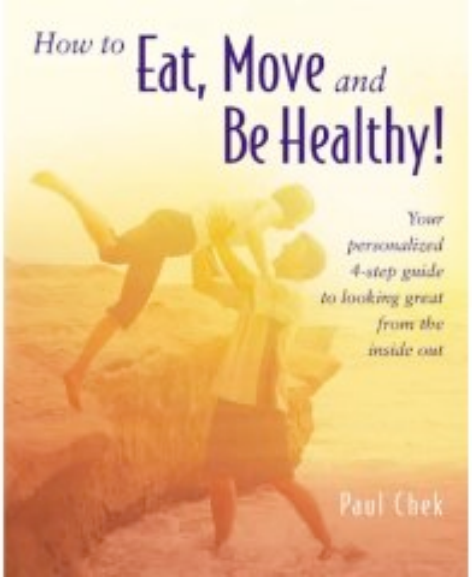
82



83



98



for free＝ただで

be healthy＝健康でいる

ささやき方だけは知っている　※ささやく＝whisper

I know just _____ _____ _____

泣き方なら知っている

I know just _____ _____ _____

どこで答えを見つければいいかだけなら知っている

I know just _____ _____ _____ the answers

ウソのつき方なら知っている　※ウソをつく＝lie

I know just _____ _____ _____

ごまかし方なら知っている　※ごまかす＝fake

I know just _____ _____ _____ it

計画の練り方なら知っている　※計画を練る＝scheme

I know just _____ _____ _____

いつ真実と向かい合えばいいかを知っている　※向かい合う＝face

I know just _____ _____ _____ the truth

いつ夢見ればいいのかを知っている　※夢見る＝dream

I know just _____ _____ _____

君のどこに触れているか分かってる　※触れる＝touch

I know just _____ _____ _____ you

何を証明すればいいのか分かってる　※証明する＝prove

I know just _____ _____ _____

いつ君をそばに引き寄せればいいのか分かってる　※引き寄せる＝pull

I know _____ _____ _____ you closer

いつ君を放せばいいのか分かってる　※放す＝let you loose

I know _____ _____ _____ you loose